

管啓次郎・野崎歓 編

ろうそくの炎がささやく言葉

(勁草書房)

刊行記念



執筆者たちが選ぶ **ともしびとなる本**

TAKE FREE

明川哲也

作家、詩人、
道化師

えざきみつる『**たったひとつの**』（あすなる書房）

版画家が書いた童話です。銀河を飲むオオサンショウウオの物語。極彩色の版画から禅な言葉がこぼれ落ちて、時間を輝かせてくれます。

『唐桑・海と森の大工』（INAX 出版）

「木造船は生きている」。津波に自宅が飲まれた後も、海の心を持ってと語っておられた岩瀬文雄さん。惜しくも6月に亡くなった日本一の船大工の、知恵と技術の記録。

石井洋二郎

東京大学教授、
フランス文学

北杜夫『**幽霊——或る幼年と青春の物語**』（新潮文庫）

小説が物語ではなく、文章そのものによって成立することを実感させてくれる北杜夫のみずみずしい処女作。「人はなぜ追憶を語るのだろうか。どの民族にも神話があるように、どの個人にも心の神話があるものだ」という書き出しは何度読んでも美しい。

大原富枝『**婉という女／正妻**』（講談社文芸文庫）

四歳から四十年間を獄中に過ごした野中婉の生きる姿を内面から描く「婉という女」。希望か絶望か、ではなく、両者を縫り合わせたところに火が熾る。極限の生命力を言葉にした作品だと思えます。

工藤庸子

フランス文学、
東京大学名誉
教授

鴻池朋子『**焚書 World of Wonder**』（羽鳥書店）

怒濤が書物をおしひらき 想像力は宇宙を幻視する
大海原が逆巻いた春の日に
臨月をむかえて産みおとされました

新井高子

詩人

柴田元幸

翻訳家、
東京大学教授

メアリ・シェリー

『**フランケンシュタイン**』（創元推理文庫）

人間がつくったものが人間より人間的だという話。

アン・モロウ・リンドバーグ

『**海からの贈物**』（新潮文庫）

先駆的女性飛行家が、島で暮らす、浜辺で暮らす。各種の貝が省察をもたらし、その英知は心をひたす。それはある時代の人生観だが、いま読んでもなぐさめは大きい。古典的な典雅さを楽しもう。

関口涼子

詩人、翻訳家、
在フランス

松谷みよ子『**ふたりのイーダ 新装版**』（講談社）

もう何十年も手にしていなかったこの本を、大震災の後、なぜか読みたいと思い、パリに取り寄せました。カタストロフを題材にしながら、人の体温、息のぬくもりまでが伝わってくる、話の強度にふたたび打たれました。

小沼純一

詩人、音楽・
文芸批評、
早稲田大学教授

管啓次郎

詩人、
明治大学教授、
コンテンツ批評

田内志文

文筆家、
翻訳家

シルヴィア・プラス 『おやすみ、おやすみ』 (みすず書房)

ゆらゆらと揺れるろうそくの光の中、こんなふう想像し、その世界で遊べたら……。楽しい空想がどんどん膨らむ、とても素敵な絵本です。

谷川俊太郎

詩人

中村天風 『成功へ導く言葉』 (イースト・プレス)

書名にまどわされないで下さい。本書 27 ページ参照。

巨敬介

作家、翻訳家、
明治大学教授、
アフロ・ラテン
アメリカ文化
研究

エイモス・チュツオーラ 『やし酒飲み』

(世界文学全集 第1集第8巻、河出書房新社)

世界にはたくさんの穴があいている。どこからでも別の世界が始まる。世界は変えられる。同じナイジェリアから出てきたベン・オクリ『満たされぬ道』(平凡社)を本当は選びたいのだが、絶版なので……先輩チュツオーラを。

鄭暎恵

社会学者、
大妻女子大学
教授、旅人ま
たは非国民

李清俊 『あなたたちの天国』 (みすず書房)

「支配と服従」の普遍的関係、「いま」「ここ」からの「非在」。自縄自縛から「未来の故郷」への脱出行をとともに旅して、「問いの島」に行きませんか？

マルクス・アウレーリウス

『自省録』 (岩波文庫)

古代ローマの哲人皇帝が、苦難に満ちた半生を通して培った英知の剛毅な輝き。強く生きよと促されます。

アーサー・ケストラー 『真昼の暗黒』 (岩波文庫)

極限状況における人間の弱さや狡さを容赦なく描きだした、どこまでも重く、どこまでも救いのないテーマなのに、なぜか読後感がふしぎにすがすがしい。原作よし、翻訳よし、個人的にはここ数年で最大の収穫でした。

富原真弓

聖心女子大学教授、
フランス思想・
北欧文学

中村和恵

もの書き、
明治大学教授、
比較文学

金子光晴 『ねむれ巴里』 (中公文庫)

金子もわたしもとりあえず今日寝るところがあって万歳。さらに、まさに「ともしび」なジャン・ケロール『一つの砂漠の物語』(白水社、絶版)もあれば万全。

西山雄二

首都大学東京准教授、
フランス思想・文学

小出裕章 『原発のウソ』 (扶桑社新書)

原発事故以来、どれほど多くの人々が小出さんの言葉を頼りにしてきただろうか。原子力の途方もない危険性に抵抗し続けてきた不屈の科学者の言葉が、確かなともしびとして私たちの方途を照らし出す。いまこそ、このともしびから、無慈悲な核の光を照らし直そう。

根本美作子

明治大学教授、
フランス文学

スタンダード

『パルムの僧院 (上)(下)』 (新潮文庫)

幸せの探究

野崎歓

翻訳家、
エッセイスト、
東京大学准教授、
フランス文学

ぱくきょんみ^選

詩人

石牟礼道子

『**妣たちの国**——石牟礼道子詩歌文集』

(講談社文芸文庫)

『苦海浄土』の著者が人間世界を諦めないことに揺さぶられる。生命に寄り添う「生き抜く」ことばが心にともり、そのともしびは決してあなたの中で消えないだろう。

筒井康隆

『**パブリカ**』(新潮文庫)

世界の中心と周縁、そしてみずからの心に愉しく近づけます。

文月悠光^選

詩人

林完次 『**月の本**』(角川書店)

夜を柔らかく照らし出す月。そんな彼女の姿を、本書は様々な角度から明らかにしてくれます。月の神話に魅了され、美しい写真に勇気づけられたなら、今夜は空を見上げてみましょう。

宮沢賢治

『**新編 銀河鉄道の夜**』(新潮文庫)

ここに収められている童話は、いわば「マトリックス(発生源、母体)」です。そこから物語が、救いが生まれる源です。そんなマトリックスが、どれも未完の匂いを放っていることも、また——。

林巧^選

作家

古川日出男^選

作家

細見和之^選

詩人、大阪府立大学教授、ドイツ思想

野村修 『**ベンヤミンの生涯**』(平凡社ライブラリー)

著者の野村修さんは背が高く、ほっそりとしていて、私には文字どおりろうそくのような方でした。この本では、ベンヤミンの姿が野村さんの清潔な文体で、美しく照らし出されています。世界的な名著です。

佐伯梅友 校注

『**古今和歌集**』(岩波文庫)

一度としておなじにならない季節の反復。日々の繰り返しのなかに、言葉が実っています。

堀江敏幸^選

作家、早稲田大学教授、フランス文学

岬多可子^選

詩人

須賀敦子・文 酒井駒子・画

『**こうちゃん**』(河出書房新社)

その子は遠くから来て、遠くへ行こうとしている。無垢な、深くまっすぐに届く視線を持つ幼子が、わたしたちの内にもきっといる。挿絵はかわいらしく美しく、しかし、必ず底に含まれている黒も、すばらしいです。

アンデルセン 『**アンデルセン童話集**』

(全7冊、岩波文庫)

『砂丘の話』『パンを踏んだ娘』『マッチ売りの少女』『雪の女王』など、愛と死について、富と貧困について、そして子供と大人、自然と人間、時の流れについて、考えなおそうとするときに、素晴らしい書物だと思います。よき葡萄酒のように、言葉をひとつひとつ、舌で味わいながら読んでみてください。

山崎佳代子^選

詩人、翻訳家、在セルビア

管啓次郎・野崎敏 編

ろうそくの炎がささやく言葉

2011年
8月8日
刊行

A5判ソフトカバー 208頁 定価1,890円(本体1,800円)
ISBN978-4-326-80052-0 C0090

内容紹介

3月11日の震災とそれに続いておこった圧倒的な出来事を前にして、言葉や本に関わる人間にできること。それは沈黙に抵抗しつつ、小さな言葉をそっとさし出すことではないでしょうか。そんな気持ちを出発点として、ろうそくの炎で朗読して楽しめる詩や短編を集めたアンソロジーを編むことにしました。

現実のあまりのきびしさに、言葉を失い茫然と立ちすくむしかないときがあります。しかし人間の歴史においては、いつもどこからか、生の痛みと苦しみと喜びをめぐらうたが湧きおこり、物語が紡がれてきました。この本をとおして、被災されたみなさんに連帯の気持ちを伝え、希望の種子となるような言葉を送りたい。そうでない人々には、日常生活から大きくはなれることなく楽しんでいただきながら、私たち全員が経験した出来事についてともに考えていくためのきっかけをつくりたい。そう願っています。

ろうそくの炎に踊る文字を読むこと自体、魅惑の時間へのいざないです。目をこらす、ちかづく、あたたかさを感じる、ページをめくる、くちびるを動かす、喉をふるわせる、耳をすませる——そこに生じるのはきわめて直接的な喜びです。と同時に、よけいな電力をつかわなくても、時には使わないほうが、ゆたかな時間をすごせるのでは、という小さな提案でもあります。

言葉の仕事をしてきた私たちがこれからも沈黙に陥ることなく言葉を紡いでいくという意志をこめて、収録作品はすべて新作か新訳といたしました。また人間の経験には多様な応答のしかたがあると考えことから、内容は震災と直接関わるものも関わらないものもあります。世界をつねに新鮮に見せる言葉への信頼と未来への寿ぎを込めたこの本を、手にとっていただけたら幸いです。

*本書の売り上げの一部は「東日本大震災」復興支援のために寄付させていただきます。

執筆者

明川哲也

新井高子

石井洋二郎

エイミー・ペンダー

エリザベス・マッケンジー

笠間直穂子

工藤庸子

小沼純一

柴田元幸

ジャン＝フィリップ・トゥーサン

管啓次郎

スチュアート・ダイベック

関口涼子

田内志文

谷川俊太郎

旦敬介

鄭暎恵

富原真弓

中村和恵

西山雄二

根本美作子

野崎敏

ばくきょんみ

林巧

文月悠光

古川日出男

細見和之

堀江敏幸

岬多可子

ミシェル・ドゥギー

山崎佳代子

「ろうそくの炎がささやく言葉」特設サイト

<http://lemurmuredesbougies.tumblr.com>

